

Composer バージョン 8.3.1 リリースノート

Copyright 2022, Symetrix, Inc.

August, 2022 年 8 月リリース

株式会社オーディオブレインズ

2022 年 8 月

概要

イントロダクション

I) 旧バージョンとの比較

II) 修正された不具合

III) インストレーションノート

IV) ファームウェア V8.3.1 へのアップグレード

V) 以前の Composer サイトファイル更新の際の注意事項

VI) Dante モードの切り替え

イントロダクション

このドキュメントは Composer version 8.3.1 のユーザーのための書類です。新規の Composer ユーザーの場合は [Audiobrain WEB site](https://www.audiobrain.com) から前バージョンのリリースノートを探すことも可能です。

I) 旧バージョンとの比較

Version 8.3.1 の修正点

- 1) **Control Server** :特定のネットワーク構成でControl ScreenがDSPに接続されないことがありました。
- 2) **Tシリーズ** : タッチスクリーンのキャリブレーションを行うコマンドを実装しました。
Remote Terminalから"TCAL"を送信しTシリーズを再起動するとキャリブレーションを1度だけ行うことができます。キャリブレーション情報を削除するには"TCAL 0"と送信します。
- 3) **Tシリーズ** : Horizontal配置したメーターが正しく表示されない問題を修正しました。
- 4) **Tシリーズ** : Radio Button上のSymbolが正しく拡大縮小されない問題を修正しました。
- 5) **T-10** : 縦向きで起動するとSymetrixロゴが正常に表示されない問題を修正しました。
- 6) ヘルプファイルの追加と修正
- 7) その他様々なマイナーエラーを修正しました。

Composer 8.3 はメジャーアップデートになり 8.2.1 から様々な機能が追加されています。

Version 8.3 の新機能 (Version 8.2.1 との比較)

- 1) 新しい**T-10**のサポート
- 2) **ASIOドライバー**をv5.30に更新しました。
C:¥Program Files (x86)¥Symetrix¥Composer8.3¥Drivers¥USB
上記パスから手動でインストールすることができ、Windows11に対応しました。
- 3) Control Screen上で**Fontサイズを変更する**右クリックメニュー、及びショートカットキーを追加しました。
- 4) TシリーズでDSPと通信できないことを示すポップアップに**"ignore"**が追加されました。
これを選択すると、再起動するまで警告が表示されなくなります。

Version 8.3 の修正点

- 1) **Composer** : ハードウェアの不一致時のエラーメッセージを追加
- 2) **Composer** : 手動で作成したAES67パスにマルチキャストアイコンを追加
- 3) **Composer** : xIO Bluetooth RCA-3.5のDanteネットワーク名を修正
- 4) **Composer** : イベントスケジューラーからのイベント削除が正常に動かないことがあった
- 5) **Composer** : Control Screen上に配置された画像ファイルが失われた場合、SymVueのエクスポートに失敗する問題の修正
- 6) **Composer** : Remote Terminal dialog boxのサイズを変更し、任意のポート番号を入力できなくなりました
- 7) **Composer** : network nameを手動で入力するとAES67用のサブスクリプションが作成されませんでした
- 8) **Composer** : RadiusAECとRadiusEX12x8のカードスロット校正が正しく表示されていませんでした
- 9) **Composer** : Remote Terminalの右側が正しく表示されていませんでした
- 10) **Composer** : Intelligent ModuleのLabelに非常に長い文字列を入力すると切り捨てられる場合があります。新たに"Extra Long Text Enabled"機能が追加されました。
- 11) **Composer** : xIO Bluetoothの"Connection Mode"設定の名称を"Pairing Mode"に変更しました
- 12) **Control Server** : 数値を編集/入力すると、リンクされたパラメーターの変更に反応しなくなることがありました
- 13) **Control Server** : Font fileの名前を変更して、"\$", "(", ")"の文字を含むと不正な動作を引き起こしました。入力できないように修正
- 14) **Control Server** : 7.0から8.2.0.8へ直接アップグレードすると、アップデートに失敗する可能性があります
- 15) **RadiusNX** : recodingとplaybackモジュールの外部ロジックが動作しない問題の修正
- 16) **RadiusNX** : playbackモジュールがPush直後に開始されないことがあった
- 17) **RadiusNX** : recodingモジュールがPush直後に開始されないことがあった
- 18) **SymVue** : ボタンが数秒間ラッチされているように見えることがあった
- 19) **T/Control Server** : date/timeが有効で、特殊文字がないLabelが表示されない問題の修正
- 20) **T/Control Server** : Custom KnobのWiper Colorが適用されない問題の修正
- 21) **T/Control Server** : Zero Pointのみ表示するように設定したFaderが正しく表示されない問題の修正
- 22) **T/Control Server** : HTTPイメージが正常に表示されない問題の修正

- 23) **T/Control Server** : KnobのTickマークが間違った位置に表示される問題の修正
- 24) **T/Control Server** : LogスケールのKnobが正常に分布していない問題の修正
- 25) **T/Control Server** : PANの目盛りが正しく表示されない問題の修正
- 26) **T/Control Server** : “This unit is being pushed to”というメッセージがクリアされない問題の修正
- 27) **T/Control Server** : date/timeの%cがComposerとSymVue for Windowsで一致しない問題の修正
- 28) **T/Control Server** : 複数のモーメンタリーボタンを一度にタッチするとボタンがラッチしてしまうことがあった
- 29) **T/Control Server** : Faderの0Pointのみ表示する設定が、適用されるべきでない場合に適用されることがありました。
- 30) **xIN12 xOut12** : Intelligent Moduleのメーターの動作が遅くなることがあった
- 31) **xIN12 xOut12** : Intelligent Module以外の設定画面を使用するとメーターが動作しないことがあった
- 32) ヘルプファイルの追加と修正
- 33) その他様々なマイナーエラーを修正しました。

Version 8.2.1 の修正点

- 8) **Solus NX** : Intelligent Modulesが再起動後に動作しなくなる問題を修正しました。
- 9) **SymVue** : Gain Reduction metersがカラー表示されず視認しにくかった問題を修正しました。
- 10) **Composer** : Custom Knob Wiperの色が保存されない問題を修正しました。

Composer 8.2 はメジャーアップデートになり 8.1.1 から様々な機能が追加されています。

Version 8.2 の新機能 (Version 8.1.1 との比較)

- 5) Dante-enabled DSPsでDanteカードの有無を選択できるようになりました。
- 6) T-5、T-10、ControlServerで**Gauge controls**をサポートしました。

Version 8.2 の修正点

- 1) **Composer** : Intelligent ModuleのNumericのLog taperが、ControlNumberで制御される場合に正しく動作しないことがありました。
- 2) **Composer** : Design viewを開いたままIntelligent ModuleのIO数を変更すると、Sheet sizeが変更されたり、他のグラフィックが正常に表示されないことがあった
- 3) **Composer** : Playbackモジュールで膨大な数のファイルが入ったUSBドライブをブラウズするとクラッシュすることがあった。
- 4) **Composer** : Intelligent ModulesのMulti-Line Labelに、プッシュ時に不正な改行が挿入されて削除時にクラッシュすることがあった。
- 5) **Composer** : Intelligent ModulesでViodeStreamのURL表示がオンラインとオフラインで異なることがあった。
- 6) **Composer** : AECの赤メーターが正しく表示されないことがあった。
- 7) **Composer** : Intelligent ModulesのLatch buttonをControl Screenから変更した場合、正しい状態が反映されないことがあった。
- 8) **Composer** : Intelligent ModulesのRemoteControlNumberを持つパラメーターでUndoするとComposerがクラッシュすることがあった。
- 9) **Composer** : VideoWallのプリセットがPreset Triger Moduleから呼び出されないことがあった。
- 10) **Control Server** : SwitchのHardware Iconが正常に表示されない問題
- 11) **Control Server** : v8.1からv7.xのダウングレードが不正に許可されていた
- 12) **Control Server** : v8.1にアップデートすると、ユーザーフォントが不正に作業されます。
- 13) **Firmware** : Radius以外のDSPで動作するIntelligent ModuleのKeyとValueの合計文字数が199以上の場合、stringの最後に-Lを追加することがあった。
- 14) **Firmware** : Dante Txバスが1 c hの場合システムミュートが機能しなかった
- 15) **Intelligent Module** : HTTPリクエストがまだ開いている状態でスクリプトを再インポートするとクラッシュする可能性がありました。
- 16) **Intelligent Module** : HTTP APIですべてのヘッダー(Key、Value、Separators)の最大長を2047から4095に変更しました。個々のヘッダー値の最大長を255から3823に変更しました。
- 17) **Radius NX** : 7.5V/9V電源がDiagnosticsで誤った表示を出すことがあった
- 18) **Radius NX** : 非常に短いプレイリストを非常に長い時間繰り返し再生すると、動作が不安定になることがあった。
- 19) **T-5** : “Wake To Home”設定がFalseに設定していると動作しないことがあった

- 20) **T-5** :デバッグログが増えすぎて稀にパフォーマンスが低下することがあった
- 21) **xIO Bluetooth** : ペ어링中にBluetooth LEDの点滅が止まらないことがあった
- 22) **xIO Bluetooth** : ステータス LEDが正しく点灯しないことがあった
- 23) ヘルプを8.2用に更新しました
- 24) その他様々なマイナーエラーを修正しました。

II) 既知の不具合

- 1) **T-5/T-5 Glassをv8.3/8.2からv8.1やv8.0へダウングレードすることはできません。ダウングレードするとSymetrixのロゴのみが表示され動作しません。再びv8.3/8.2にアップグレードすることで復帰します。**
- 2) Danteのリダンダンシーモードの設定変更を行った場合にDante信号が出力されないことがあります。詳細は、VI) Dante、ネットワークスイッチ使用とリダンダントモードの切り替え を参照してください。
- 3) Composerが機器の検索に失敗することがあります。この場合Windowsのファイアウォールの設定にComposer83.exeを追加し再起動してください。
- 4) Radius NXの外付けUSBドライブにアクセスする機能を同時に使用するとパフォーマンスが低下する可能性があります。FTP、メディアマネージャーを介したファイルの記録、再生、アクセスなどで、これらの機能の使用は最大で2つを推奨します。
- 5) Radius NXのUSBレコード機能は、1つのファイルあたり4GBに制限されています。これを超えた場合ファイルは分割されます。
- 6) Radius NXのRecord/Playback機能に低品質なUSBドライブを使用すると、パフォーマンスの低下や機器のリブートなどが発生する可能性があります。
- 7) 英数以外の文字を含むプレイリストはMediaManagerを使用して編集することはできません。その場合はFTPを使用し手動で編集してください。同様に、英数以外の文字を含むオーディオファイルはMediaManagerからプレビューすることはできません。
- 8) 全てのデバイスをミュートするプリセットを使用する場合にAtteroTech社やその他サードパーティーデバイスの機器がミュートされない場合があります。
- 9) xIn, xOut, xIOもしくはサードパーティー製のDanteユニットがネットワークに接続された場合に、Composerから認識されるのに最長2分程度かかる場合があります。また接続解除時も最大1分間Composer上に表示が残る場合があります。

- 10) Composer上で一部の制御がSymVueに反映されません。詳細はヘルプファイル内のSymVueトピックを参照してください。
- 11) SymVueで大規模の複雑なコマンドを設定する場合、処理に時間がかかることがあります。
- 12) 大規模なマトリクスを設定をプリセットに100個以上保存すると処理速度が低下することがあります。
- 13) SymVueでShure社のマイクロホン制御を含むプログラムを作成した場合、処理速度が落ちることがあります。Shure社のマイクロホンのコントロールを最小限にすることでパフォーマンスレベルを維持できます。
- 14) 稀にSymVueパネルとコントロールスクリーンのディスプレイ表示と数値に差があります。例えばBritish EQの周波数表示でコントロールスクリーンが200,000Hzを示している時、パネル側では200,002Hzと表示されます。この差は0.002%未満の相違のため無視しても全く問題になりません。
- 15) オクターブとQ表示を変更できるEQモジュールを使用する場合、SymVueパネルではオクターブ設定にしても常にQの表示になってしまいます。エクスポート時に作られた設定が反映されるため、エクスポート後に表示単位を変えても反映されません。エクスポート後に表示を変更できるようにしないでください。
- 16) 背景イメージをコントロールスクリーンで使う場合に背景イメージを選択してしまい、操作したいコントロール項目が触りにくい。避けるためには背景イメージを右クリックにてロックし、Altキーを押しながらコントロール項目の設定を行ってください。
- 17) DTMFデコーダーモジュールでDTMFシーケンスはプリセットに保存されません。この設定はセッティングファイルには保存されます。
- 18) 対応するフェーダー無しに数値ボックスをコントロールスクリーンに配置した場合、正常にアップデートされない事があります。必ずフェーダーも同時に配置してください。
- 19) 1つのシステムにDanteデバイスはSymetrixDSPを含み最大128台までが許可されています。128台を超えると特定のデバイスが見つけれなくなる場合があります。
- 20) ARC-WEBダイアラーでスピードダイヤルに数千を超える膨大な文字が入力されていると正常に動作しないことがあります。通常の使用方法で問題になることはありません。
- 21) xIn4、xOut4、xIO4x4デバイスのDante Kernelファームウェアをアップグレードする際、Danteネットワーク上に大量のDanteデバイスがあるとアップデートは成功したのにも関わらず失敗のメッセージを表示することがあります。エラーメッセージを表示せずにアップグレードしたい場合はxIO4デバイスを1台ずつ、1台のDSPに接続しアップグレードを行ってください。
- 22) セキュリティソフトが作動している場合、稀にWebモニタリングが正常に行えないことがあります。その場合はセキュリティソフトをOffにするかDSPユニットのIPアドレスをセーフリストに追加してください。

III) インストレーションノート

既に導入済みの設備の機材をアップグレードする場合は下記の手順を推奨します。

1. 現在のサイトファイルを保管していることを確認してください。 (拡張子.symx のファイル)。既に PC に保存されている場合は手順 2 に進んでください。サイトファイルを保管していない場合、以前の Composer ソフトウェアにて SymetrixDSP と通信し“Go On-line (Pull from Unit)”を行い、SymetrixDSP からサイトファイルを引き出して保存及び保管してください。
2. “Upgrade Firmware”ウインドウから“Erase Memory”をクリックし“Stored Site File”にのみチェックいれ“ERASE”をクリックしてください。この作業は接続されている機器全てに行ってください。
3. ファームウェアをアップグレードして下さい。
4. お持ちのサイトファイルを SymetrixDSP ハードウェアにプッシュしてください。Composer 8.3.1 を開き**>Go On-line (Push Design to Hardware)** を実行します。

上記の手順を行えばハードウェアと Composer ソフトウェアのバージョンが一致しシステムの正常動作が保証されます。

Composer ソフトウェア 8.3.1 は以前のバージョンの Composer ソフトウェアとは別のロケーションに保存され、以前のバージョンとは干渉しないよう設計されています。そのため Composer ソフトウェアは以前のバージョンの Composer ソフトウェアと同じ PC 内に共存することができます。

ただしハードウェアのファームウェアバージョンと Composer ソフトウェアは正常な通信を確保する為に同じバージョンでないといけません。ファームウェアとソフトウェアが異なるバージョンの場合はアラートが表示されます。

IV) アップデート手順

SymetrixDSP ファームウェアと Composer ソフトウェアのバージョンは必ず同じバージョンである必要があります。最新のファームウェアは常に最新の Composer ソフトウェアとセットで提供され、ソフトウェアのインストールと同時にコピーされます。最新のソフトウェアはオーディオブレインズホームページのダウンロードページよりダウンロード可能です。

Composer はファイルをプッシュする時に自動的にバージョンチェックを行い、Composer ソフトウェアと機器のバージョンが異なる場合はアラートが表示されアップデートウィンドウに誘導されます。これは全ての DSP と xIO ユニットを含みます。

アップデートを始めるには、まずアップデートするバージョンの Composer ソフトウェアをインストールし、その Composer ソフトウェアを開きます。

※Symetrix 機器のアップデート中はパワーアンプやスピーカーの電源をオフにするか、接続を外して音の出ない状態にしてください。

また、アップデート中は電源を切らないでください。正常に起動できなくなるおそれがあります。

サイトファイルを使用して DSP をアップデートする方法

1. コンピューターとシステムを接続し、全てのハードウェアをロケートします。既存のファイルがある場合はそのファイルを使用します。
2. Hardware メニューから“Upgrade Firmware/Hardware Setting”を選択してください。ウィンドウが表示されたら“Auto Upgrade All Design Units…”ボタンを押してください。サイトファイル内に配置された全てのハードウェアのファームウェアアップデートが行われます。

※この方法では xIO ユニット、ARC ユニットは自動的に更新されません。

サイトファイルを使用せずに 1 台ずつ手動で DSP をアップデートする方法

1. コンピューターと SymetrixDSP を接続します。
2. Hardware メニューから“System Manager”を選択してください。“Hardware”タブを選択するとコンピューターに接続されている全ての DSP ユニットが表示されます。
必要に応じて“Network Search Parameters”を設定してください。
3. アップデートするハードウェアを選択して“Upgrade Firmware”ボタンを押してください。
4. “Upgrade Firmware/Hardware Settings”ウィンドウが表示されます。
“Composer Firmware File”の下の“Upgrade…”ボタンを押してください。ファームウェアファイルを指定するウィンドウが表示されます。デフォルト設定では、C:\Program Files (x86)\Symetrix\Composer 8.3.1\Upgrade folder を参照します。正しいファイルを選択し“開く”を押してください。自動的にアップデートが始まります。
5. 複数のハードウェアのバージョンアップが必要な場合は上記手順を繰り返してください。

xIn12, xOut12, xIn4, xOut4, xIO4x4 のアップデート方法

1. SymtrixDSP と xIn/xOut/xIO を接続してください。デバイスは必ず SymetrixDSP の Dante ポートに接続されている必要があります。
2. 全ての DSP ユニットと xIO ユニットのロケートします。既存のファイルがある場合はそのファイルを使用します。
3. xIn/xOut/xIO ユニット上で右クリックし“**Unit Properties**”を選択してください
4. Firmware に現在の User バージョンと Kernel バージョンが表示されます。
5. “**Upgrade Firmware...**”ボタンを押してください。アップデートの必要がない場合は(will not be upgraded)と表示されます。“**Upgrade Firmware**”ボタンを押しアップグレードしてください。
6. 複数の xIO ユニットのバージョンアップが必要な場合は上記手順を繰り返してください。

ARC デバイスのファームウェアアップグレード

ARC デバイスのファームウェアアップグレードは下記の手順に従い行ってください。

※ARC デバイスはユニークアドレスを割り振る必要があります。

(通常ロータリーエンコーダーで設定します。ARC-3 の場合は設定モードに入る必要があります。)

サイトファイルを使用してアップデートする場合

1. 新規でファイルを作成する場合は、新規でファイルを作成し DSP のロケートを行います。ARC の設定も行う必要があります。
ARC デバイスが設定されたファイルを持っている場合はそのファイルを使用します。
2. Hardware メニューから“Upgrade Firmware/Hardware Settings...”を選択してください
3. プルダウンリストから ARC デバイスが接続されている DSP ユニットを選択して“Upgrade ARCs”をクリックします。
4. 接続されている ARC 機器の一覧が表示されます。アップデートが必要な機器は Status に“Please Upgrade to xxx”と表示されます。必要がない場合は“Current Release”と表示されます。
5. アップデートするデバイスを選択し“Upgrade Firmware”ボタンを押してください。
6. ファームウェアファイルを指定するウィンドウが表示されます。適切なファームウェアを選択し“開く”を押してください。自動的にアップデートがはじまります。
7. 複数の ARC デバイスのバージョンアップが必要な場合は上記手順を繰り返してください。

サイトファイルを使用しないでアップデートする場合

1. ARC デバイスを SymetrixDSP の ARC ポートに接続します。
2. Hardware メニューから“System Manager”を選択してください。“Hardware”タブを選択するとコンピューターに接続されている全ての DSP ユニットが表示されます。
必要に応じて“Network Search Parameters”を設定してください。
3. ARC デバイスを接続している DSP ユニットを選択して“Properties...”ボタンを押してください。

4. “Hardware Properties”ウィンドウが表示されたら“RS-485 Network”タブを選択してください。
5. 接続されている ARC 機器の一覧が表示されます。アップデートが必要な機器は Status に“Please Upgtade to xxx”と表示されます。必要がない場合は“Current Release”と表示されます。
6. アップデートするデバイスを選択し“Upgrade Firmware”ボタンを押してください。
7. ファームウェアファイルを指定するウィンドウが表示されます。適切なファームウェアを選択し”開く”を押してください。自動的にアップデートがはじまります。
8. 複数の ARC デバイスのバージョンアップが必要な場合は上記手順を繰り返してください。

V) 以前のサイトファイル更新の際の注意事項

Composer ソフトウェアはソフトウェアのバージョンごとにサイトファイル(.symx file)フォーマットが異なります。以前の Composer で作成されたサイトファイルは新しい Composer で開くことは可能です。しかし、作成されたサイトファイルが使用している Composer ソフトウェアよりも新しい Composer ソフトウェアで作成された場合はアラートが表示され、一部機能が正常に動作しない可能性がありますので動作の保証ができません。

もしコンピューターに複数の Composer を共存させる場合はファイルフォーマットの違いを最小限に収めるため下記の手順を推奨します：

- A) 以前のバージョンで作成したサイトファイルのバックアップを取っておく
- B) バージョン 8.3.1 のサイトファイルの名前を以前のバージョンのものと差別化して保存する
- C) ソフトウェアをインストールする際にデフォルトのロケーションを変えておく
- D) バージョン 8.3.1 ソフトウェアを以前のバージョンのファームウェアの機器と接続しない

A) バックアップファイル保存の推奨

新しい Composer ソフトウェアをインストール、もしくは使用する前に以前のバージョンのサイトファイルを保存しておくことを推奨します。保存しておくことで以前のセッティングを復元することが可能です。

※注意

新しい Composer で一度サイトファイルを保存すると以前のバージョンでは開けなくなる可能性があるので注意してください。

B) バージョンごとに異なったサイトファイル名をつける

もし PC 内に複数バージョンの Composer をインストールしている場合はサイトファイルの保存を行う時にバージョンを表記しておくことを強く推奨します。これによりバージョンごとの混同がなくなります。

C) ソフトウェアインストールの保存ロケーション設定

Composer ソフトウェアをインストールする際、サイトファイルの保存ロケーションを選択しておくことで複数のバージョンのソフトウェアを使用していてもファイルが混じらず分けることができます。

D) ソフトウェア-ファームウェアバージョンの同期

ソフトウェアとファームウェアは正常に動作するには同じバージョンである必要があります。バージョンが異なる場合はこのリリースノートの手順に従いバージョンを合わせてください。バージョンアップはどのバージョンのファームウェアであっても可能です。

VI) Dante ネットワークのモードの切り替えについて

DSP ユニットの Dante mode が Switched mode に設定されている時に、ケーブルが Redundant 接続 (Primary から Primary、Secondary から Secondary へ計 2 本接続)された場合、Dante モードの変更の失敗やオーディオの損失が発生することがあります。

モードを変更する場合は下記の手順を参照してください。

接続方法によって 2 種類の手順があります。

A – ネットワークスイッチを使用、もしくは 2 台の DSP ユニットのみをダイレクトに接続する場合

1. Dante ポートの接続は Primary ポートのみを使用してください。
ネットワークスイッチを使用せずに 2 台以上の DSP ユニットが接続されている場合は、下記デジチェーン接続の場合へ進んでください。
2. Composer 内で、Tools-> Dante Flow Manager->Configure Dante メニューに進んでください。
“Redundant Network”もしくは“Switched Port”から変更したい設定を選択してください。
3. ファイルを Push しオンラインにしてください。
Dante の内部設定を変更しているため普段よりも少し長めに時間がかかります。
4. 接続されている DSP ユニットの電源を落としてください。
5. 新しく設定したモードにあった配線を行ってください。
Redundant Network に設定した場合は 2 台の DSP ユニット間で Primary と Primary、Secondary と Secondary を接続してください。ネットワークスイッチも分ける事ができます。
6. DSP ユニットの電源を入れてください。
7. 再び Push しオンラインにしてください。

B – デジチェーン接続の場合

1. 2 台の DSP ユニットの Primary ポート同士のみで接続してください。
複数台ある場合は最初に接続されている 2 台のみで接続してください。
2. Composer 内で、Tools-> Dante Flow Manager->Configure Dante メニューに進んでください。
デジチェーン接続は Switched モードのみの対応なので“Switched Port”に設定してください。
3. DSP ユニットが複数台ある場合はサイトファイル内で最初に接続されている 2 台のユニットのみを有効にしてください。
(デザインビュー上で接続されていない DSP を右クリックして“Disable Unit”を選択します。)
4. ファイルを Push しオンラインにしてください。
Dante の内部設定を変更しているため普段よりも少し長めに時間がかかります。
5. DSP ユニットが複数台ある場合は 2 台目の機器を取り外し、3 台目のユニットの Primary ポートから最初に接続されている DSP ユニットの Primary ポートに接続してください。
6. 3 と同様にサイトファイル内で接続されている DSP ユニットのみを有効にしてください。
7. 再びファイルを Push しオンラインにしてください。

8. 全ての機器に 5-7 と同じ設定を行ってください。
9. DSP ユニットの電源を落としてください。
10. 全ての DSP ユニットのデジチェーンで接続してください。
11. DSP ユニットの電源を入れてください。
12. 全ての DSP ユニットの“Enabled Unit”にして再び Push しオンラインにしてください。

※各 DSP ユニットの Dante ネットワークモードはフロントパネルから確認する事ができます。

株式会社オーディオブレインズ

〒216-0034

神奈川県川崎市宮前区梶ヶ谷 3-1

電話：044-888-6761